

授業科目(ナンバリング)	国際栄養論 (IA307) (実践的教育科目)			担当教員	高江洲 有沙 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
世界には様々な食習慣や食文化を持った国や地域、民族が存在し、食の多様化を理解する上で、国際的な食糧の動向や健康・栄養問題を学ぶ必要がある。またグローバル化が進む中で、地球規模で健康・食・栄養の問題を考え、課題に取り組む姿勢を求められる。本授業では、自文化の理解と共に多角的な視野で健康・食・栄養に関する問題を発見し、課題解決するための姿勢や方策を学ぶことを目的とする。							②③④⑤ ⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	エビデンスに基づいた健康・栄養の情報を伝えることができ、諸外国における栄養問題の課題と取り組みについて総合的に考えることができる。				・定期試験 ・課題レポート	15% 5%	
情報収集、分析力	諸外国の文化的背景と食生活に関連した情報を収集し、健康について総合的に分析することができる。				・課題レポート	15%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	グループワークやディスカッションを通して自ら日本と諸外国の解決すべき栄養課題を導き出し、説明することができる。				・授業態度、授業への参加度	15%	
多様性理解力	国際的な視点で問題意識を持ち、諸外国の健康・食・栄養課題とその取り組みについて理解できる。				・定期試験	50%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の成績を 65%とし、筆記試験と穴埋め式の試験を行う。課題レポート（第 5 回、第 12 回）の成績を 20%とし、グループワーク及びディスカッションの内容に関する課題を指示する。 ・グループワーク及びディスカッションの成績は 15%とし、課題に沿ってグループディスカッションでの発言、的確に発表できているか、理論性や理解度を評価する。 ・レポートのフィードバックは授業中に行う。 							
授 業 の 概 要							
<p>グローバル化が進み、わが国においても様々な国や地域の人々が生活をしており、諸外国の食文化や習慣を理解した上での食の教育が必須となってくる。教員の国際協力の実務経験を活かして、具体的な事例を紹介し、持続可能な開発目標 (SDGs) に基づいたわが国と諸外国の健康・食・栄養に関する取り組みの比較や諸外国の歴史・食文化・習慣について学修する。授業では、配付プリントとパワーポイント、グループワーク及びディスカッション、ビデオ映像等を用いて行う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分である。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定はしない。授業中、適宜資料を配付する。</p> <p>参考書：「国際保健医療学 第 3 版」日本国際保健医療学編 杏林書院</p> <p>指定図書：「国際保健医療学 第 3 版」日本国際保健医療学会編 杏林書院、「食からの異文化理解-テーマ研究と実践-」河合利光編著 時潮社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>諸外国の健康や栄養、食文化に関するニュースの情報収集を意識的に行い、日本と諸外国の違いや共通する部分について考え、視野を広げていくことを期待する。また、世界で起きている健康・栄養の問題を自分事化する意識をもって授業に取り組んでいただきたい。授業中の私語、携帯電話、メール等は厳禁である。また、特別な事情を除き無許可での途中退出は不可とする。</p>							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 食の歴史	・国際栄養論の概説並びに受講生に望むこと、受講上の注意点 ・日本の食文化や諸外国の食について	予・復) 行ったことのある国や地域、行ってみたい国や地域の食を調べる
2	世界の国々の多様性	「世界がもし 100 人の村だったら」ゲームを通して世界の人々の分布や多様性を知る (グループワーク)	予) なし 復) 世界人口や民族を理解する
3	食料と環境問題	世界の食料事情と環境問題 (水と汚染、農業等)	予) 食料と食糧の違いや近年の環境問題について 復) 食料と環境問題
4	国際機関と日本の役割	国際機関の役割と日本の ODA (主に医療・保健分野に関連する機関)	予) 栄養に係わる国際機関を調べる 復) 国際機関と ODA
5	世界の健康・栄養問題について	世界の健康・栄養問題にはどのようなものがあり、解決に向けての取組みについてグループディスカッション (課題レポート)	予) どのような健康・栄養問題があるのか調べる 復) 課題レポート
6	世界の栄養問題①	国際的な栄養に関する政策と施策 (MDGs)	予) 日本の栄養に関する政策 復) 国際的な栄養課題に対する取組み
7	世界の栄養問題②	主要な栄養問題とその原因 (途上国、先進諸国)	予) 栄養問題には何かあるか考えておく 復) 栄養問題の解決に向けて取組みこと
8	世界の健康・栄養状態	世界の健康・栄養状態を判断するための指標やデータについて知る	予) 栄養状態を把握するために必要と思われる知識 復) 低栄養や貧困の指標を理解する
9	各国の栄養政策	諸外国の食生活指針やフードガイドなどを知り、各国が抱えている栄養課題を学ぶ	予) 日本の食生活指針 復) 諸外国の食生活指針
10	各国の栄養政策と NCDs	諸外国の NCDs 対策について知る (大洋州における取組事例)	予) 生活習慣病について 復) NCDs の基本的な内容
11	食の体験	諸外国の郷土料理の再現 (調理実習) あるいは宗教食等の試食	予・復) 興味のある国や地域の食材や調理法を知り、特徴を理解する
12	多様性理解のために必要な技法	コミュニケーション能力がなぜ必要なのか、ファシリテーターの体験を通して理解する (グループディスカッション・課題レポート)	予) 2 回目の多様性について復習しておく 復) 課題レポート
13	持続可能な開発目標 (SDGs) ①	健康・栄養に関する項目について事例を紹介しながら学ぶ	予) SDGs について事前学習 復) SDGs の各自の行動目標を考える
14	持続可能な開発目標 (SDGs) ②	各自で持続可能な開発目標に関する行動目標について考え、グループワークを行う	予) SDGs の資料を理解しておく 復) 自らの目標を行動できるようにする
15	まとめ	・日本の栄養士制度と諸外国の栄養士制度 ・授業の振り返りとまとめ	予・復) 世界の国々の栄養問題解決に向けての取組みを考える
16	定期試験		

注) グループワークのテーマは受講者の人数によって変更することがある